

## 第 13 回 (12/19) 現代社会学 3 : 人間関係と「自由」

### 1. 連絡・報告

### 2. 「人間関係入門Ⅱ」成績評価 (確認)

平常点 (受講取組みの積極性・課題提出) (60%)、期末レポート (40%) により評価する。

【平常点】60%

- 基本的には出席点

【期末レポート】40%

- 3名の先生方の講義のうち、各自がとくに興味をもった先生のご講義に絞ってまとめる
- 1,200字程度 (ポイントまとめ 800字 + 考察 400字)
- 第 15 回 (1/16) 授業時に提出

※ 提出期限を厳守してください cf. 社会生活における「期限」の重み

※ レポートが提出されない場合、レポート評点は 0 点となります

※ 学内内規により総得点 (平常点 + レポート評点) が 59 点以下の場合、成績は「不可」となります

※ GPA 制度について

### 3. 現代の若者の人間関係 (土井)

たとえば、

- 昨今の学校現場では、クラスが一つのまとまりとして成立しづらくなっている
- ごく狭い範囲での関係の固定化が進んでいる
- 数人程度の小さなグループの内部で人間関係が完結してしまい、クラス全体の統一性や一体感が生まれにくくなっている

cf. 「グループが異なれば、県が異なるみたいだし、クラスが異なれば、国が異なるみたい」  
「島宇宙化」 (宮台)

#### 4. 1990年代以降の若者バッシング論

##### 友人関係の「希薄化」

- 現代の日本社会全体における共同体の崩壊や価値観の多様化から若者の秩序や意味世界を支える規範が失効し、人間関係やコミュニケーションの希薄化がみられるようになった
- 若者は対面的な関係の中で相手に傷つけられることをおそれて、つきあいを表面的なものにとどめようとする傾向を強めている
- 携帯やネットはその傾向を助けるための格好の手段となっている

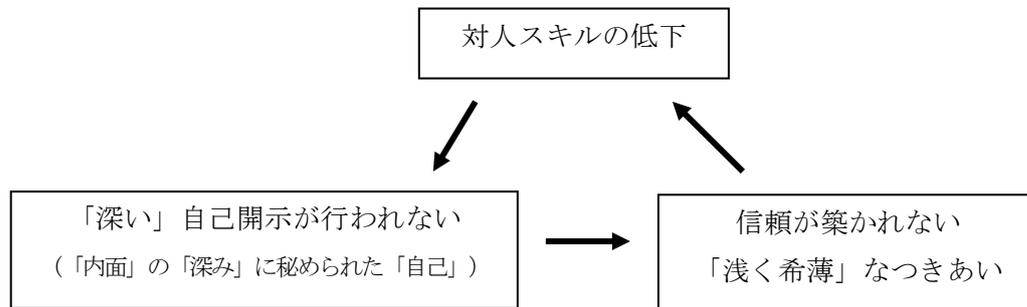
「…少女たちは群れているようでも、『ガラスの関係』だ。お互いを傷つけたり、壊したりしないように気を配る。相手を思いやるでもなく、心を割ってぶつかり合うこともない希薄な関係だ」（東京新聞、2003年7月19日朝刊）

「生身の人間とつきあえば傷つくが、キカイ〔携帯やネット〕を通せば大丈夫、やばくなれば off にすればいい、という考えが隠されている」（小原 2002: 28-29）

「現代の若者には「相手の気持ちに踏み込んでいかぬように気をつけながら、滑らかで暖かい関係を保つていこう」と努める、特有の「やさしさ」がみられる」（大平 1995: 71）

- 親密な関係を構築するために必要な能力である対人スキルが低下している

##### 友人関係希薄化の悪循環



#### 5. 福重氏の疑問

- 「希薄化」の変化は、むしろ親密さに関する図式そのものの解体。若者たちの間では、これまでの<深い-浅い>といった図式では測りえないような関係が「親しい」「友人」関係を構成すると考えられるようになってきているのではないか
- 友人関係の希薄化によって「社会化」（対人スキルの学習など）機能が低下したというのは本当か
- 友人関係の希薄化とは、たんに「友人」の категорияが拡大し、従来の友人概念も残しながら、これまでは「友人」と呼びえなかったような（従来の図式からすれば）「希薄な」関係も、「友人」の категорияに含まれるようになった、ということではないのか

cf. 友人関係の「**選択化論**」

現代の若者の友人関係は必ずしも希薄化しているとはいえない

さまざまなタイプの友人が場面に応じて選択的に使い分けられている

↓

- 選択化が希薄化を否定することには必ずしもつながらない
- 選択化と平行して、同時に希薄化も生じているのではないか

## 6. 現代の若者のコミュニケーション戦略

### 3種類の戦略

- ① 初対面の人に対して、さしあたりのコミュニケーションの開始を可能とするような暫定的な共同性をとりあえず信頼してコミュニケーションを開始し、そのコミュニケーションの文脈から外に出ないようにする（自己の内面を開示するようなコミュニケーションには移行しない）
- ② 共有できる信頼の前提を探りながらコミュニケーションの文脈を徐々に展開し、最終的に人格的な信頼を築き上げていく
- ③ コミュニケーションに随伴する「否定」のリスクを徹底的に回避しようとするやり方。あらゆるコミュニケーションからできる限り撤退する。その限りにおいて安心と信頼のできる居心地のよい関係を構築しようとする

\* 友人関係の質は、もっと多面的な尺度によって測られる必要あり

## 7. 中間考察

## 8. 「優しい関係」

「優しい関係」

- 現代の若者たちにとって、周囲の人間と衝突することは、異常な事態
- 自分の身近にいる他人の言動に対してつねに敏感
- 相手から反感を買わないようにつねに心がけることが、日々を生き抜くための知恵

↓

親密な人間関係が成立する範囲を狭め、他の人間関係への乗り換えも困難に

「今、このグループでうまくいかないと、自分はもう終わりだ」

↑

∴ 現在の人間関係だけを絶対視してしまい、他の人間関係のあり方と比較して相対化することができない

ex. ぼかし表現： 友だちとの衝突を避けるテクニック

「とりあえず食事とかする？」 「ワタシ的にはこれに決めた、みたいな」（断定を避ける）

「あ、そうなんだあ…？」（半独言・半クエスチョン）

→ 「対話」ではなく「共話」

「相手に優しい関係」

- 相手の事情を詮索して踏み込んだりしない
- 自分の断定を一方的に相手に押しついたりしない

|

「自分に優しい関係」

- 自分の立場を傷つけかねない危険性を少しでも回避し、自分の責任をできるだけ問われないようにする

## 9. 「自分らしさの檻」からの脱出

•

•

↓

•

## 10. 他者との関係性・社会への帰属と「自由」

→ 配布資料（論点整理）

- 「勝手気まま、思いのまま、自由に生きる」
- 「欲しいものを手に入れる（自己の欲望充足）」
- 「自分の好きなことを好きなようにする」（イヤなことキラいなことを避ける） という生き方

↓

- 好き勝手、自由気ままな生き方は、（ところが）満たされない、自分の人生が空っぽ、幸せを感じることができない

「自分の思うがままに生きることが素晴らしい」という価値観

↑

- 我々は組織の中や社会のがんじがらめに生きてきた
- 組織が一番、コミュニティが一番で、自分を犠牲にするのが当たり前の社会（だった）  
ex. 自分の自由を全て夫や子どものために犠牲にする人生に耐えられなくなり...

### 通過儀礼（“大人”になるための）

- 社会に出ると、とたんにとても理不尽で、自分を否定され、敵だらけの世界に放り出される。
- 「みんなが見方で、みんなが優しい」とは限らない状況
- 大人になる＝社会に属すること
- 大人になる＝コミュニティ（会社組織・家族・地域社会）に属し、貢献すること
- 「自分のために生きていた弱い主人公が、葛藤を乗り越え、人々のために生きるようになる。これが大人ってやつだ。」

### 自分の価値と存在意義 ——社会への帰属、他者との関係

- 人は、誰からも（自分を）認められたいと思っている
- 我々は他人との関係の中で自分（の価値・存在意義）を見いだす
- 我々人間という生き物は、社会の中で生きるように作られている。
- （我々人間という生き物は）組織や集団に属して、それに貢献しなければ、安定した幸福や安らぎを感じられないようにできている

### 結語

- 欲を満たすだけでは心は満たされない
- 組織に属し“貢献している”感覚が安定をもたらす

## 11. 参考：自己決定フェティシズム

### 「自己決定フェティシズム」

「自分のことは自分が決める」という自己決定権に対する固執

「私は私の運命の支配者である」という自尊感情

「自己決定することはいついかなる場合でもよいことである」という信憑

「自己決定したことであれば、それが結果的に自分に不利益をもたらす決定であっても構わない」

## 12. 検討・考察

## 13. 議論・検討の趣旨確認 ——本講のねらい

社会学的な検討（←社会学的発想・思考）

- 価値意識・社会的意識についての考察
- その価値意識が形成・流布される社会的な背景要因

#### 14. 引用・参考文献

内田樹、2007、『下流志向 ——学ばない子どもたち 働かない若者たち』講談社  
諏訪哲二、2005、『オレ様化する子どもたち』中公新書ラクレ  
浅野智彦編、2006、『検証・若者の変貌 ——失われた 10 年の後に』勁草書房  
土井隆義、2008、『友だち地獄 ——「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書  
菅野仁、2008、『友だち幻想 ——人と人のくつなぎをを考える』ちくまプリマー新書  
森真一、2008、『ほんとはこわい「やさしさ社会」』ちくまプリマー新書  
小原信、2002、『i モード社会の「われとわれわれ」』中央公論新社  
大平健、1995、『やさしさの精神病理』岩波新書  
中西新太郎、2004、『若者たちに何が起きているのか』花伝社

J.S.ミル、塩尻公明・木村健康訳、1971、『自由論』岩波文庫  
I.バーリン、生松敬三他訳、1971、『自由論 1・2』みすず書房  
井上達夫、1999、『他者への自由』創文社  
数土直紀、2000、『自由の社会理論』多賀出版  
仲正昌樹、2003、『「不自由」論 ——「何でも自己決定」の限界』ちくま新書  
橋本努、2007、『自由に生きるとはどういうことか』ちくま新書

MSN ドニッチ！

(<http://donicchi.jp.msn.com/opinion/goodwill3/article.aspx?cp-documentid=251603558&page=0>, 2012/12/16)

#### 15. 次回の予告

1 月 9 日 現代社会学 4 : 女性のキャリアと感情労働

以上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

# 「自分らしさの檻」からの脱出

- 意外性に満ちた体験
  - 異質な人びとと出会う体験      の積み重ね
- ↓
- 生きづらさと正面から向き合い、生きづらさを抱えながら生きていくこと
-